

Y07b **世界天文年 2009「めざせ 1000 万人！みんなで星を見よう」の実施について**  
渡部潤一（国立天文台）、井上毅（明石市立天文科学館）、石坂千春、ほか「めざせ 1000 万人！みんなで星を見よう」実行委員会一同

2009 年、世界天文年の理念「一人ひとりが空を見つめ、宇宙・地球・人間に思いをはせる」を一人でも多くの方に実践してもらうため、我々は「国民の 10 人に 1 人に星を見せる！」心意気で「めざせ 1000 万人！みんなで星を見よう」プロジェクト（以下「1000 万人」）を実施した。「1000 万人」実行委員会のメンバーは渡部潤一委員長を筆頭に 24 名。世界天文年 2009 日本委員会の主催企画であった。

「1000 万人」は、星を見た人に「1000 万人」のホームページから、いつ、どこで、何を、何人の人と一緒に見たのか、ということ報告してもらう、というゆる～いプロジェクトではあるが一般市民に広く大規模に直接呼びかけを行なう点で世界初の試みである。

また、全国の「星を見せる施設」の利用者数を網羅的に毎月都道府県別に集計した。「星を見せる施設」には、プラネタリウムや公開天文台のみならず、天文教育関係団体に所属しない青少年の家や望遠鏡付き民間宿泊施設等が含まれており、このような全国的な一斉調査を実施するのは今回が初めてである。調査は全国に配置された 50 名の連絡員が各施設に毎月聞き取りを行なう方法で行なわれた。

都道府県別の傾向、月毎の変動など興味深い集計結果が得られたので年会においてポスター発表する。さらに、報告とともに全国から集まった写真を組み合わせて制作した天文年フォトモザイクポスターも公開する。